

ベトナム AIDS 予防教育

ベトナムはタイに続き HIV 感染者が多く、なかでもホーチミン市（元サイゴン）では増加傾向にあります。PHJ はタイで 10 年間実施している「AIDS 予防ピア教育」を、ホーチミン市の国立医科薬科大学（UMP）をパートナーとして 2009 年から実施しています。今年 1 月に PHJ タイの責任者と一緒にベトナムを再度訪問し、ワークショップに参加するとともに今後の方針を協議しました。

UMP は、副学長を責任者とした体制で積極的に取り組んでいます。ベトナムでの教育は UMP 学生をピアリーダーに養成し、次に彼らが仲間や後輩を指導する方法で年齢差の少ない仲間同士の効果的な教育です。この養成教育は「知識教育」と「リーダーシップ教育」から成り立っていますが、医学大学生の質は高く HIV 知識は豊富です。ただリーダー養成に必須のリーダーシップ教育が不足しているため、タイのノウハウを活用し力を入れています。

第 3 回目となる 1 月のピア教育ワークショップは約 80 人が参加しました。このワークショップのリーダーシップは、担当教授と以前タイで教育を受けた 2 人の先輩（5

年生と 6 年生）で、座学だけでなく実習やゲームを取り入れた楽しいタイ方式の教育でした。タイでは「楽しく学ぶ」ではなく「楽しいから学ぶ」という文化があります。今後ベトナムでも楽しいピア教育の成果とともに、HIV 感染者が減ることを期待しています。



AIDS 感染をゲーム形式で体感する学生

（蓮見）

HIV/AIDS 流行状況（2008 年）

| | HIV 感染者総数 | HIV 新規感染者数 | AIDS による死亡率 |
|------|-----------|------------|-------------|
| 世界 | 3,340 万人 | 270 万人 | 200 万人 |
| タイ | 61 万人 | 2 万人 | 3 万人 |
| ベトナム | 32 万人 | 3 万人 | 4 万人 |
| 日本 | 1.5 万人 | 1,557 人 | 100 人未満 |

（出典：UNAIDS2009、厚生労働省 2009）

巻頭言 持続可能性への挑戦



PHJ 理事
清家 篤
慶應義塾長

より良い社会を作るための課題は多岐にわたります。今日、それを一つの共通したことばで括るとするならば、それは様々な持続可能性にかかわる課題であるといえます。

たとえばわれわれの住む地球の持続可能性があります。具体的には、温暖化問題等の環境問題や水などを含む天然資源の枯渇にかかわる問題等です。また人間の生物の種としての持続可能性も重要課題です。これは少子化や人類を脅かす疫病とどう立ち向かうかなどの問題です。そして人間の作った国際社会の持続性、すなわち安全保障や国際金融秩序の問題等もあります。さらに一国の持続可能性にかかわる問題もあります。社会保障制度あるいはその前提としての経済成長の持続可能性の問題等がそれです。これら様々な局面での持続可能性の低下は、将来社会の存立そのものを危うくします。

地球社会の将来に最も決定的な要因となるのは、地球に住む私たち一人ひとりが、どのような選択をし、また行動をとるかです。課題を見つけ、解決に至る方法を考え、いかに行動し、実際の解決に結びつけていくかがこれからの地球社会の持続可能性に対する重要な論点になっていくものと思われれます。こうした意味で、途上国の人々の自立を医療と健康で支えるという理念を掲げ「健康・医療の教育」を軸に日々行動しているピープルズ・ホープ・ジャパンは、地球の未来を見据え、今できることについて地道な努力を積み重ねている団体として、地球社会にとって非常に重要な役割を担っています。絶大なご支援によってピープルズ・ホープ・ジャパンの日々の活動を支えておられる多くの法人、個人会員、公的機関の皆様、そして甲谷勝人理事長をはじめとしたピープルズ・ホープ・ジャパンの皆様には深甚なる敬意を表したいと思います。

ピープルズ・ホープ・ジャパンが、これからも多くの人達を健康に導き、希望ある社会を創り、地球社会全体に対する持続可能性に挑戦し続けていかれることを願っております。ピープルズ・ホープ・ジャパンの一層のご発展をお祈り申し上げます。

「AIDS 予防教育」大阪で講演

大阪府看護協会からの依頼で1月、AIDS 予防教育の講演を大阪で行いました。その内容は PHJ が10年間タイで実施している「AIDS 予防ピア教育」の活動報告と日本への展開可能性です。

タイでは、大学生をピアリーダーに養成し、そのピアリーダーが仲間や後輩に教える方法です。教える方と教えられる方との年齢差が少なく、大学生から中学生まで約4万人を教育し、その効果の大きいことが評価されています。

日本での HIV 新規感染者数は過去最高を更新し続け、2008年には累積感染者数が15,000人を突破しま

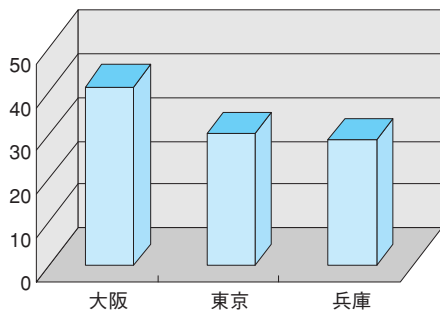
した。感染者数はここ5年で倍増し先進国で唯一増加傾向にある恥ずかしい状況です。なかでも大阪府は対人口 HIV 感染率が日本で最悪で、看護協会を中心に予防教育の必要性が議論されており、「他人事」から「自分事」に意識を変えてゆこうと必死です。講演には100人を超える多くの参加者があり、質問やアンケート結果から大阪の熱心さを痛切に感じました。

今回の講演がきっかけとなり「タイをモデルとした AIDS 予防教育」を日本文化に合った形で大阪で実施することになりました。8月に協会関係者がタイを視察し、10月からピア教育を実施することになり、PHJはその橋渡しをさせていただくことになりました。PHJのタイ AIDS 予防ピア教育は現在ベトナムに技術移転中ですが、日本への橋渡しにも協力でき光栄に思います。

(須見)



HIV感染症罹患患者数（人口10万対）平成20年度



タイ・HOPE パートナー・ラーニングセンター設立

2002年以来 PHJ タイはラジャナカリンドラ小児生育医療センター (RICD) を支援してきました。特に留意したのは長期にわたって支援の効果を確認することです。

RICDの所長 Dr. サマイは2009年2月に「HOPE パートナープログラム対象の障害児の家族および近隣のケアテイカー向けに、障害児が家庭にて訓練を受けられるために必要な知識、技術を取得する場所としてラーニングセンターを建設した

い」と PHJ タイに熱心に提案してきました。

そして2009年12月、日本の企業の強力な支援のもとラーニングセンターが完成しました。第1回のパイロットトレーニングはタイ北部の8県の保健センターのスタッフ向けに開催されます。今後タイの他の地域さらには近隣の国にもプログラムを広げてゆく予定です。

(タイ所長 ジラナン)



2009年12月：保健省の方々の参加も得た開所式



2010年1月：初めての家族向け講習会

カンボジア——村での保健教育

地域の保健センターのサービスや運営を改善するだけでは、地域の保健状況は良くなりません。同時に、村人が必要な時に速やかに保健サービスを利用できるように、村人に十分な情報と知識が提供されなければなりません。

健康に関して農村に住む人々がこれまで頼っていたのは、村に住む伝統医や伝統的産婆です。様々なタイプの伝統医がありますが、主に薬草などを使って病気の人を治療します。お払いやまじないを施す伝統医もいます。また、村には認可を持たない薬売りや民間のクリニックもあり、病人の治療を行います。彼らが長年、村人の健康を支えてきたといえるかもしれませんが、間違いも多く、また重症化した時に対応できないという問題があります。

カンボジアは幼児の死亡率が高いのですが、すぐに保健センターに行かないこともその一因となっています。伝統医を頼り、村で病気の子供を治そうと試行錯誤しているうちに、時間が経ち、症状は悪化し、保健センターや病院へたどり着く頃には手遅れになり助からない、というケースが非常に多いのです。すぐに適切な治療を受けていれば、死ぬことはない病気であるのに。

私たちは村での保健教育を通して、村人に病気について、どういう対応をすべきかという情報を提供

しています。教育を行うのは、地域の保健センターのスタッフとその村の保健ボランティアです。多くの村人は文字を読めないで、保健教育は紙芝居などの教材を使って行います。例えば「下痢」はどんな症状で、その原因、予防、そして実際に下痢になったときの対策について教えます。



保健センターでのワークショップ

私たちの事業ではまず、保健センターで数々のワークショップを通じて保健ボランティアには様々な病気に関する知識と、それを村人に伝えるノウハウを身につけてもらいます。これらの成果は村での保健教育で発揮されるのですが、一回目では、大勢の人を目の前にして緊張し何を話すか忘れてしまうボランティアもいます。しかし、保健ボランティアは村の保健を担う人材です。これからも練習と実践を通してボランティアの意識の向上と、村人の知識の向上、ひいては保健センターのサービス利用増加を目指し活動を進めていきます。

(中田)

インドネシア——地域医療施設保健衛生改善状況（深井戸掘削）



診療所内の汚れた浅井戸

PHJは、2004年インドネシア・バンテン州セラン県で、外務省 NGO 無償資金協力事業として「地域保健医療システム強化事業」をスタートしました。この事業はミレニアム開発目標のゴールでもある「乳幼児死亡率の削減」「妊産婦の健康の改善」を目指す母子健康改善活動です。

改善成果は着実に上がってきていますが、事業成果の持続性を確実にするためには安全・安心な水を確保することが非常に大事なことが明らかになりました。この地域の上下水道の整備計画はなく、地域医療の中心となるべき診療所でさえも「安全な水確保」「必要最低量」の水確保が困難です。

PHJは“水問題の改善なくして成功なし”と判断し、セラン保健局の水問題改善モデル事業として、診療所の医療用水確保を主目的に、環境配慮と維持・管理に配慮したソーラーパネルと電動ポンプシステムを提案・導入しました。

2008年にパイロット井戸の掘削に成功（HOPE

ニュース No.45）、2009年には外務省 NGO 無償資金協力事業（深井戸掘削事業）で、テイルタヤサ自治区診療所とプサル村地域保健センターに深井戸を掘削して、診療所の医療サービス行為の衛生改善（分娩助産時の感染症予防など）をすることが出来ました。

この結果、テイルタヤサ自治区診療所には24時間対応の分娩科が新設され、開設6ヶ月間で49件の分娩があり、更に助産師教育のインターン診療所にも指定されました。プサル村地域保健センターでは、同じ期間で妊婦検診と分娩で計184人が利用しています。

赤道直下である地の利を生かしたソーラー駆動の深井戸を、「医療用」と的を絞った仕様にするにより、住民所得が低く、公共インフラの整備されていない地域で、比較的低い費用で、出産という命にかかわる分野の保健改善に大きく貢献できる確信を得ました。今後もしもご支援をお願い致します。（伊藤）



新設した深井戸

会員のひろば

何故社会貢献が必要なの？何故寄付なの？

渡邊典夫（個人会員）



1980年代前半、若造の私は、或るメーカーの北米現地法人を立ち上げ、経営に携わっていました。現法は順調に発展し、1千人近くの現地従業員を抱えるようになりました。或る日、米人幹部から「この企業も社会貢献活動をするのを考えるべきだ。」との意見が出されました。自分が率いる企業の発展と収益の増大以外に興味を持たず、企業の社会貢献に関する知識も乏しかった私は「我々はこの地域で多くの雇用機会を提供しており、それだけでも大きな貢献をしていると思うのだが？」と切り返しました。「いや、私の言う社会貢献とは、もっと別の観点に立つもので、例えば地元へ寄付をすることなどを考えるのはどうか？」等のやり取りがあり、市の消防へ寄付をすることで現地人幹部の声に応えたのです。

然し、この対応は、その場凌ぎのもので、私自身は企業のそのような形の社会貢献に心底から共感していた訳ではありません。偶々、私はアメリカを代表するような優良大企業の上級役員と会う機会があり、その折、彼らの社会貢献に対する考え方を訊いてみました。彼の答えは要約すれば次の通りです。

*我々の企業は北米は元より世界各国で事業を展

開しているが、翻って事業のあり方を見る時、重要なことは、その国、地域、そして社会があって初めて我々の企業の存在意義があるのだと気付くことです。あまりに普遍的過ぎて我々は忘れがちですが、社会があって初めて我々の企業が成り立つのであり、それは一人ひとりの個人に置き換えても同じことが言える。企業も個人も同じように社会に支えられ、生かされていると考えるべきでしょう。

*我々の企業は何万人という従業員を雇用し、また膨大な量の製品を製造・販売しているが、これも社会に従業員を供給して頂き、製品を買って頂いてこそ成り立つのだと理解しています。

*企業を支え、多大な恩恵を与えてくれている社会に対して企業が貢献することは当然のことであり、社会貢献のコストは企業経営のコストの不可欠な一部であると考えています。同様に一個人としても自分を支え、生かしてくれている社会に貢献することは当然のことだと思っています。

若く未熟な私は企業の経営層がこのような考え方を持っていることに衝撃を受けたものです。又、米国の企業や社会が育てている社会貢献の根底にある明快で堅固な思想に触れたような思いを持ったものでした。社会貢献に関するこのような基本理念は「何故社会貢献が必要なの？」「何故寄付なの？」という素朴な問いに対する一つの答えであると考えます。

日本製薬団体連合会への事業活動紹介

PHJを発足当時から支援してくださっている日本製薬団体連合会の総務委員会総会が3月2日に開催され、PHJは事業活動を紹介する機会を頂きました。出席者約70名はPHJをご支援いただいている企業のメンバーの方々です。



これまでのご支援の経緯と成果、PHJの概要、ベトナムのHIV/AIDS感染予防教育、インドネシアの母子健康教育、カンボジアの栄養給食・教育について現地担当者としてPHJ担当者が説明いたしました。

総会後の懇親会では現地の状況がよくわかりPHJの活動に感銘したとの感想をいただきました。

「安全なお産」支援募金、開始！

現地のニーズに対応すべく開始した用途特定の募金活動。その第2回目は妊娠・出産における生涯死亡率が日本の240倍*というカンボジアの「安全なお産」支援募金です。第1回目のタイ障害児支援募金(写真)は、50名様と2社様から支援をいただいております。(2月末現在)ありがとうございます。いずれの募金も受け付けておりますので、ぜひご協力ください。



*国連世界保健機構調べ

横河武蔵野アトラスターズからのご寄付

ラグビーのトップイーストで好成績を収めた横河武蔵野アトラスターズは試合毎に試合会場でPHJのために募金を行なって下さっています。また年末のカレンダー募金も支援して頂きました。心から感謝いたします。次シーズンこそトップリーグへの復帰を願っております。皆様、ご一緒に応援しましょう！

…メールニュースについてのお願い…

▶「メールニュース発行」

PHJでは季刊誌「ホープジャパン」に加え毎月の活動報告やお知らせをタイムリーに行うために登録していただいた方にメールニュースを配信しております。既に創刊号、2月号、3月号を配信いたしました。

▶ e-mail address のご登録

現在会員の方は是非 e-mail address を登録してください。会員でない方も e-mail address を登録していただければメールニュースを配信いたします。登録は info@ph-japan.org 宛にお申込みください。なお皆様からいただいた個人情報は適切に管理しビープルズ・ホープ・ジャパンの活動のみに使わせていただきます。

09 年末カレンダー募金の御礼

昨年年末の募金にご協力いただきありがとうございました。厳しい経済情勢にも関わらず募金額はカレンダー募金2,585,850円、その他に職場等でまとめて頂いた年末募金230,113円、合計2,815,963円にのびりました。募金は、各地の母子健康支援事業継続のため大切にさせていただきます。